

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1173200963		
法人名	有限会社 富岡英語学院		
事業所名	グループホームこしごえ		
所在地	埼玉県比企郡小川町大字腰越424-3		
自己評価作成日	令和5年3月12日	評価結果市町村受理日	令和5年6月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和5年5月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢の利用者様が終の棲家としてよかったと思っていただけるよう、食事の美味しさがQOLの中でも重要と考え 介護職員＋αで調理提供をしている。それによって介護職員にも余裕が生まれより良い介護が提供できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・信頼関係を築いていくことを大切にされ、言葉かけや対話に力が入れられており、家族からも「職員の方々が新設、丁寧」、「とてもよくサポートしてくれている」「食事が大変美味しい」、等の高評価を受けている。また、利用者それぞれの個性を尊重され利用者の生活の中に笑顔や安らぎがあることを大切にされることで、利用者の潤いのある暮らしに活かされている。
- ・運営推進会議は、感染予防のため、会議の開催はできない状況だったが、開催方法を工夫され対面での開催を再開させた。運営推進会議では、幅広い内容での意見交換が行われ、的確なアドバイスをいただく機会にもなり、有意義な会議運営がされている。
- ・目標達成計画については、日常的な外出支援についての課題を設定され、継続的な散歩が出来ること、今後の外出支援も新たに検討されていることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのつながりを持ちながら家庭的で明るく楽しい生活を謳い、サービス提供場面においても振り返りとなっている。	地域の特性を活かした事業所づくりが意識的におこなわれている。また、日々の生活の場面での関わりが重視され、職員の服装も含めて家庭的であることにも留意されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度の目標であった運営推進会議は再開され地域のコミュニティの代表者とコミュニケーションが以前と同じように取れている。	長年にわたり、地域住民からの理解が得やすい関係づくりに努力されているため、コロナ禍で物理的な交流が減っても書面でのやり取りを活用しながら地域との繋がりを継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して認知症や日々のケアの方法についての説明、話し合いを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際、評価、取り組み状況を報告し意見を聞き、反映させている。	対面での運営推進会議の再開がされており、定期的に参加者からの意見を取り入れられている。今年度は感染予防対策、防災訓練の状況報告やワクチン接種状況報告などに細やかなアドバイスをいただきサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にできるだけ参加していただき話し合いの場を設けている。	町担当者には、運営推進会議に参加していただき、町の取り組みや地域情報を伝達してもらうなどの協力体制がつくられている。また日頃から連絡をとり、地域の情報や市の取り組みなどを教えてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出入り口等夜間以外は施錠していない。また基本理念に掲げ常に目に届くところに掲示し、職員は常に念頭に置きケアにあたっている。	2か月に1回、身体拘束廃止委員会が開かれ、研修やカンファレンスも含めた話し合いが行われており、身体拘束をしないケアの意識は職員に正しく理解されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や講演等にできるだけ参加し、学んだことをホーム内にて共有している。また小さな気付き等も職員全体で把握しケアに問題がなかったかその都度振り返る機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会はあるものの十分に理解していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事への参加時等に声掛けをし意見や雰囲気作りに努めている。また運営推進会議でも活発な意見等出している。また、管理者・職員で話し合いの場を設け、運営に反映させている。	感染予防のため面会制限があるなかでも、家族との連絡を密にとり、利用者との会話の時間も意識的に持つなど、相談しやすい環境づくりに力が入れている。面会方法に関しての要望が多く面会スペースを設置するなど実践された。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期ミーティング(月2回)の他、随時ミーティングを行い反映させている。現在はコロナ禍の為、運営推進会議を行わず、第三者評価を利用している。	代表者や管理者との隔たりがなく、日頃から細やかなコミュニケーションが図られている。ミーティングの場でも自由な意見交換がされており、積極的に職員からの提案が取り入れられている。今年度は行事に関する提案を反映させることができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の意見をよく聞いて職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修の参加を促している。外部研修で学んだことを内部研修に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協議会に参加している。会議にはできるだけ参加し、見学に出向く等の関係作りに努めている。また他の同業者からの見学を受けることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のホーム見学等で家族・本人から聞き取りをしっかりと行っている。また日々のケアにおいても不安を取り除けるよう気を配っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からしっかりと聞き取りを行い要望等の把握に努めている。また面会時等も同様の対応をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在ホーム外サービスの要望はないが要望が出ればできる限り対応する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事、食事等行動を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に家族の参加を促したり、面会が少ない家族には電話で話をしてもらったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	3月1日より制限を解除したのでその時の状況を見て地域の行事に参加する方向。	新型コロナ感染予防の為、面会は制限せざるを得なくなっているが、日頃の様子を手紙に書き、写真と一緒に家族に送るなどされ、関係性が途切れないように工夫をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクやおやつ作り等を通して関わりを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があれば対応するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的な1日の流れはあるがその中で希望・意向を聞いている。	一人ひとりと向き合う時間を意識的にとることで意向が把握されている。「会話が困難な方でも毎日の様子を観察することで気持ちを理解することはできる」、「ホワイトボード」を使用して筆談する工夫もしている」、という職員の言葉からも本人本位の支援がおこなわれていることが伺える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に聞き取りを行っている。またサービス利用開始後も何気ない会話等の中から把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者のその日の状態や力量に合わせてお手伝い等をお願いしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人に関わりを持つ関係者にできる限り意見を聞きそれを踏まえ作成している。	利用者、家族、かかりつけ医、看護師、介護職員等から総合的に把握された情報をもとに定期的に話し合いの場が設けられている。カンファレンスでは利用者ごとの対応が検討され、介護方法の工夫が話し合われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人介護記録・支援経過に記入し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要があればできる限り柔軟な支援やサービスに取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公園への散歩や、ホーム周囲の木や草花の世話等を行うことで心が和み楽しんでいる。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人・家族と話し合いこれまでのかかりつけ医にお願いをし病院が遠い場合や急変時等は家族と本人の同意を得て協力医に変更する場合がある。受診結果については家族に報告し情報を共有している。	入居時に利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。医療に関する情報の共有や主治医との連携に力が入れられており、適切な医療を受けられるようサポート体制がつけられている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で訪問看護との連絡が取れるようになっている。また月に2回訪問看護日誌を利用して細かいやりとりを行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院に足を運び状態の把握に努めている。またその際、病院関係者との情報交換や相談等を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と相談し、できる限りホームで対応して医療が必要になった時は病院等に移している。	家族や主治医との意見交換や情報の共有により、可能な場合には看取りの支援に取り組まれている。看取りに関しては家族と主治医との認識に隔たりができないように支援されるなど、受け入れ態勢の強化にも取り組まれている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	近隣の病院等で行っている研修を定期的受けている。また毎回ではないが防災訓練時に応急手当等の訓練を消防署指導の下、合わせて行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を運営推進会議内で行う事も可能になり、コロナ禍以前のような実践訓練を行う事ができる。	地域住民の方々の参加協力が再開されているほか、連絡網に近隣の協力者を掲載させていただくなど協力関係が継続されている。設備や備品に関しても補助金を有効活用され、常に対応策が検討されている。	コロナ禍での災害は特に予測不可能なことと職員だけの避難誘導には限界があると想定されることから、定期的な避難訓練の実施とともに状況にあわせた工夫を継続して検討していくことが期待されます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	聞かれたくない事柄に関しては個別の対応、小声で話す等している。(排泄やプライベートな問題等)	日々のケアの中での配慮や注意点に関しては勉強会やミーティングの場で話し合いが行なわれ、尊厳を傷つけない対応方法が確認されており、職員全体での共通理解に繋がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の着る服や理美容の希望等自己決定できるように働きかけている。また食事也希望を取り入れる等している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクや散歩等、希望を聞いて好きなことをやれるようにできる限り努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者は化粧品を購入したり、顔剃りをしたり着る物を見立てたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同じテーブルで食事を摂っているが作るレベルには達していない。簡単な片付け等を手伝っていただくこともある。	家庭的な食事の風景を意識し、食器の素材や器の種類にもこだわって提供されている。季節感やイベント的な楽しみも感じられるように、おせち料理やちらし寿司などメニューも配慮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量やバランスを考えた献立である。摂取量は個人介護記録に記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導の他、個々の排泄パターンに合わせた誘導をしている。また、状況に応じポータブルトイレも活用している。	一人ひとりの排泄の状況が把握され、タイミングよく声をかけることでトイレに座って排泄できるように気を配って支援されている。また自分で出来る事に関しては本人にも説明し、納得してもらいながら自立支援に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を摂っていただけるよう食事に取り入れている。水分摂取と歩行練習・体操を毎日行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	好きな時間には入れないが季節に合わせて菖蒲や柚を入れている。時々、入浴剤を使用し飽きないよう工夫している。	利用者それぞれにあった入浴の方法や注意点は職員間で話し合われ共有されている。気持ち良く入浴できるように環境を整えられ、個人のペースで入浴を楽しめるように声をかけながら無理のないような支援が実施されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて自由に休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その都度、薬局等からいただいた薬の説明書に目を通し把握している。また、薬が変わった時などは引継ノート等活用し症状の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コップ等の片づけ、洗濯物干し、掃除等の軽作業をその日の状態に応じ手伝っていたている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩をしている。また家族の協力で外食や知人宅に訪問する方もいる。3月1日より、直接面会、外出も解禁している。	感染予防のため、密を避け外出の企画が検討され、ベランダでお茶を飲みながら、四季折々の花や景色を見ることで季節を感じてもらったり、外気浴をしながら歌を歌ったりと工夫されている。	感染予防の為、外出の制限をせざるを得ませんでした。今後は感染予防に留意しながらも外出の機会を増やしていくことが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は持たせていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をつなぎ話していただいている。手紙も読み書き、投函等支援し、やりとりできるよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり毎日隅々まで清掃して不快なことがないように配慮している。	感染予防のための消毒も含め、清潔な環境で気持ち良く過ごせるように掃除や整理整頓に力が入れている。四季の変化を感じられるような飾りつけが工夫され、ゆったりと過ごせる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関のソファ等で居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用してた家具や小物を持参したり本人の好みで居室の様様替えをしている。	それぞれの利用者の生活スタイルやこだわりを尊重し、本人が過ごしやすいことを重視し、思い出の写真や好みの家具など、その人らしい居室づくりが支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ポータブルトイレの蓋を開けておく、夜間トイレの電気を点けておく等の工夫をしている。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム こしごえ

作成日: 令和 5年 6月 20日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	○災害対策 コロナ禍での災害は特に予測不可能なものと職員だけの避難誘導には限界があると想定されることから、定期的に避難訓練を実施するとともに状況に合わせた工夫を継続して検討していくことが期待される。	現在は避難訓練を行っているが、それだけでは十分とは言えないので、避難訓練以外にも災害時の工夫をしたい。	災害時の対策として太陽光を導入し、合わせて蓄電池も購入したので、発電量やグラフを見ながら災害時の停電時にもライフラインとして機能するよう調整する。	12ヶ月
2	49	○日常的な外出支援 感染予防のため、外出を制限せざるを得ませんでしたが今後は感染症に留意しつつ外出の機会を増やしていきたい。	現在はほぼ達成できているが、流行期に入った時の制限と、緩和のタイミングをひとつ基準を作りたい。	5類に移行してからの感染の波を見つつ基準を作る。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。